

## 3

次の文章は、明治時代に書かれた「吾輩は猫である」の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔ここまでのあらすじ〕 吾輩は猫である。名前はまだない。笹原（注2）の中に捨てられた吾輩は、食べ物求めて忍び込んだある家に住み着くようになった。教師をしているその家の主人には様々な客があり、吾輩は、人間とは思議なものだと思ひながら、主人や来客の姿を観察している。

こう暑くては猫といえどもやりきれないA。皮を脱いで、肉を脱いで骨だけで涼みたいものだといギリス（注1）のシドニー・スミスとかいう人が苦しがつたという話があるが、たとい骨だけにならなくともいいから、せめてこの淡灰色（注3）の斑入り（注4）の毛衣だけはちよつと洗（注4）い張りでもするか、もしくはは当分のうち質（注5）にでも入れたいような気がする。人間から見たら猫などは年（注6）が年じゅう同じ顔をして、春夏（注7）秋冬一枚看板で押し通す、至って単純な無事な銭のかからない生涯を送っているように思われるかもしれないが、いくら猫だつて相応Bに暑さ寒さの感じはある。たまには行水の一度ぐらいあびたくないこともないが、なにしろこの毛衣の上から湯を使った日にはかわかすのが容易なことでないから汗臭いのを我慢してこの年になるまで銭湯ののれんをくぐったことはない。おりおりは団扇（注8）でも使つてみようという気も起こらぬではないが、とにかく握ることができないのだからしかたがない。それを思うと人間はぜいたくなものだ。なまで食つてしかるべきものをわざわざ煮てみたり、焼いてみたり、酢（注9）に漬けてみたり、味噌（注9）をつけてみたり好んでよいいな手数をかけてお互いに恐悦（注8）している。着物だつてそうだ。猫のように一年じゅう同じ物を着通せというのは、不完全に生まれついた彼らにとって、ちと無理かもしれんが、なにもあんなに雑多なものを皮膚の上へ載せて暮（注9）らさなくてもものことだ。羊（注9）の御厄介になつたり、蚕のお世話になつたり、綿畑のお情けさえ受けるに至つてはぜいたくは無能の結果だと断言してもいいくらいだ。

（夏目漱石「吾輩は猫である」による。）

(注1) シドニー・スミスIIイギリスの作家。

(注6) 年が年じゅうII一年中。

(注2) たといIIたとえ。

(注7) 一枚看板IIここでは、一枚しかない衣服のこと。

(注3) 斑入りIIまだら模様。

(注8) 恐悦IIひどく喜ぶこと。

(注4) 洗い張りII洗濯してしわを伸ばすこと。

(注9) 暮らさなくてものことだII暮らさなくても済むことだ。

(注5) 質にでも入れたいII質屋にでも預けたい。

一 〰〰線部A「やりきれない」、〰〰線部B「相応に」とありますが、それぞれの意味として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つずつ選びなさい。

A やりきれない

B 相応に

- 1 役に立たない
- 2 落ち着かない
- 3 耐えられない
- 4 無視できない

- 1 それなりに
- 2 ささやかに
- 3 想像以上に
- 4 世代ごとに

二 ———線部「羊の御厄介になつたり、蚕のお世話になつたり、綿畑のお情けさえ受ける」とありますが、この部分は、人間が何をどうすることを表したものです。十字以内で書きなさい。

三 山田さんと中川さんは、この文章で面白いと感じた点について話し合っています。次は、二人が【注目した表現】と【話し合いの一部】です。【話し合いの一部】で山田さんは、「③と④には、共通した面白さがあるよね。」と発言しています。あなたは、③と④には、どのような共通した面白さがあると考えますか。あなたの考えを、「【注目した表現】③と【注目した表現】④には、」に続けて、三十字以上、五十字以内で書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【注目した表現】

① 皮を脱いで、肉を脱いで骨だけで涼みたいものだといギリスのシドニー・スミスとかいう人が苦しがつたという話がある

② 淡灰色の斑入りの毛衣だけはちよつと洗い張りでもするか、もしくは当分のうち質にでも入れたいような気がする

③ なまで食ってしかるべきものをわざわざ煮てみたり、焼いてみたり、酢に漬けてみたり、味噌をつけてみたり好んでよけいな手数をかけてお互いに恐悦している

④ なんにもあんなに雑多なものを皮膚の上へ載せて暮らさなくてものことだ

【話し合いの一部】

山田 ①は、猫なのに物知りで、

人間でもあまり知らないよ  
うなことを知っているところ  
が面白い。

中川 ②は、できるはずのない

ことを、その気になればで  
きるかのように語っている  
ところが面白いと思う。

山田 ③と④には、共通した面

白さがあるよね。



